

令和7年度日高山脈襟裳十勝国立公園協議会第1回登山道部会

議事要旨

■日時:令和7年6月23日(月)15:00~16:30

■場所:中札内村 農村環境改善センター 大集会室(Web会議システム併用)

■議事概要

1. 開会(司会:北海道地方環境事務所国立公園課長補佐 田畠)

2. 議事

(1)日高山脈襟裳十勝国立公園登山道部会の今後の進め方について

・資料1、資料1(参考)、資料2について、事務局より説明。資料3について愛甲教授より説明。

<質疑等> ※→:事務局

【論点1.部会の今後の方向性について】

○先んじて、アドバイザーを山岳関係組織から招へいしてはどうかと事務局から提案があったが、どうなったか。

→今回は見送った。今後、アドバイザーから御意見をいただきたい議題があれば、適宜、部会の皆さんに伺った上で、声掛けし、お呼びすることとしたい。まずは、ヒアリング等で対応できればと思う。

【論点2.日高山脈襟裳十勝国立公園におけるグレーディングの試行について】

○既に大雪山グレードがあるので、利用者は同じ基準で比較するのではと思うが、日高山脈は大雪山とは全く環境が異なる。大雪山は上に登ると平坦だが、日高山脈は険しくなる。また日高山脈は谷を登るルートが多いため、グレードは上がると思う。

→例えばアポイ岳中腹についても、大雪山グレードではグレード3の中級クラスとなるだろう。大雪山グレードでいうグレード6を追加しないと日高山脈では対応できないと思う。グレードの分け方について意見はあるか。

○環境省の公園計画において、カムイエクウチカウシ山の登山ルートには、現時点で通行不能な道道が含まれている。事故が起きたら困ることから、道路管理者は通行止めにしていると認識。グレードは、道路及び管理者に関する情報を踏まえて設定する必要があるのではないか。

→道路管理者側で理由があって通行止めとしているので、それが解消されるまでには、通行不能であるものと受け止めている。

○登山者の便宜を図って車道通行を認めている林道もあるが、通行の安全を保障しているわけではない。国有林の林道の通行については、自己責任であることについて

強調し、認識を徹底したい。

○大雪山では、登山者が自己判断の参考にグレードを活用しているといった声はあるか。

○登山者にどれくらい認知されているか近況は不明である。過去にグレードの認知度やグレードにあわせた行動がとれているかを調査したことがある。グレードの設定から時間が経ち、マップへの掲載、登山雑誌の付録等にもなっており、周知・浸透はされている状態。一方で、登山地図には記載されておらず、外国人、初心者に認知されているかは不明。ベテランが意外と知らないよう状況もあるようで、まだ浸透には課題がある。

○グレードが山行可否の判断材料になった等、グレードの活用のされ方に関する調査はされてないか。

○グレードに合わせてルートを選んでいるかの調査はした。大雪山は悪天候時も、夏でも低温になる強風が吹きつける。そういう所はグレード5にしているため、天候の急変に応じて引き返す目安にしてほしいと考えている。

○山行の判断に役立ててもらうという視点で考えた場合、自分の力量をわかっているか否かで、グレード活用可否が変わるかもしれない。

○グレードに装備に関する情報を盛り込むことで、充分な装備を持って山行しようとする人もいるかもしれない。

○親切にするなら、自身のグレードがどこに該当するかの解説も一緒にあると良いのではないか。

(2)各構成員からの登山道状況に係る情報の持ち寄りについて

・資料4について、事務局より説明

→登山時、スマホを携帯してGPSのポイントを落としながら写真を撮る方もいるため、電子データのやり取りで情報管理する方法もあると思っている。

(3)環境省業務の予定について【報告】

・報告資料1について、事務局(アジア航測(株))より説明。

→今後の部会の検討課題の基礎資料として活用するために、まずは幌尻岳のルートについて、環境省でも調査を実施するもの。

○調査の実施について平取山岳会に共有しているか。

→まだ山岳会と情報共有はしていない。役場とは事前調整している。役場から山岳会に情報共有をお願いしたい。

→登山道部会のアドバイザー招へいについて、推薦する団体等があれば教えてほしい。なお、十勝、日高山脈連盟に加盟している各地域の山岳会の方は、各山脈連盟名義で参加可能と考えている。

○植生関係の専門家には声をかけないのか。

→まずはグレーディングにあたってアドバイスをいただける方という観点で御意見伺いたい。

(4)その他各構成員からの情報提供【報告】

・報告資料 2(1)について、日高北部森林管理署より説明。

・報告資料 2(2)について、十勝西部森林管理署より説明。

○先日の北海道日高地方山岳遭難防止対策協議会の総会で、「夏山登山の5つの心得」についての情報共有がなかった。本心得や国立公園協議会の動きについて、環境省から各地域の山岳遭難防止対策協議会へ共有していくべきである。

→了解した。山岳遭難防止対策協議会事務局と調整する。

○本公園のポータルサイトが必要とされる時期は近いのではないか。

→日高山脈襟裳十勝国立公園協議会の公式な情報発信の必要性は理解する。他方、現状では国の機関で新しいドメインを取得し、HP を立ち上げることは推奨されていない。各構成員の中で、協議会のポータルサイトの立ち上げの可否を検討いただきたい。当面の間は、環境省 WEB サイトにある本公園のページに、新しい情報を追記していきつつ、できるだけ多くの人に見ていただけることを目指したい。

3. その他

○日高山脈襟裳十勝国立公園協議会・部会の役割や目指すべき方向性がはっきりしない。グレーディングを行うことが目的ではなく、それを用いて多くの人に安全に登山を楽しんでいただくことを前提とし、持ち寄った情報をどう取り扱うか、その先のアクションが見えないと、動きづらい。この協議会が果たす役割をはっきりさせたほうがよい。

→一般に公開すべき情報と、内部で共有する情報は分けて考えなければならない。

全部 HP での共有とはしない。今後、内部(関係者)で共有できる仕組みを考えていきたい。

○国立公園になった。環境省の立場、役割を内部で検討してほしい。

→了解した。どのような役割を果たしていくか考えていきたい。

○「夏山登山の5つの心得」のデータは HP に掲載されているのか。

→環境省 WEB サイトにおいて、PDF を掲載し、利用者が確認、印刷できるようにしている。また、いくつかの構成員においても WEB サイトに掲載していただいていると理解している。

○WEB サイトをリンク集のようにできないか。PDF に記載している QR コードの 5 つのサイトについては、直接飛べるようにしておいた方がよい。

→至急検討する。なお、「夏山登山の5つの心得」の PDF に記載している QR コード

には、ハイパーテキストを埋め込んでおり、クリックしてリンク先に飛ぶこともできる。

4. 閉会